



畜産PR大使「おーいたん」

マルキンだより

トピックス

公益社団法人 大分県畜産協会 TEL:097-545-6594
FAX:097-554-4049

第101号

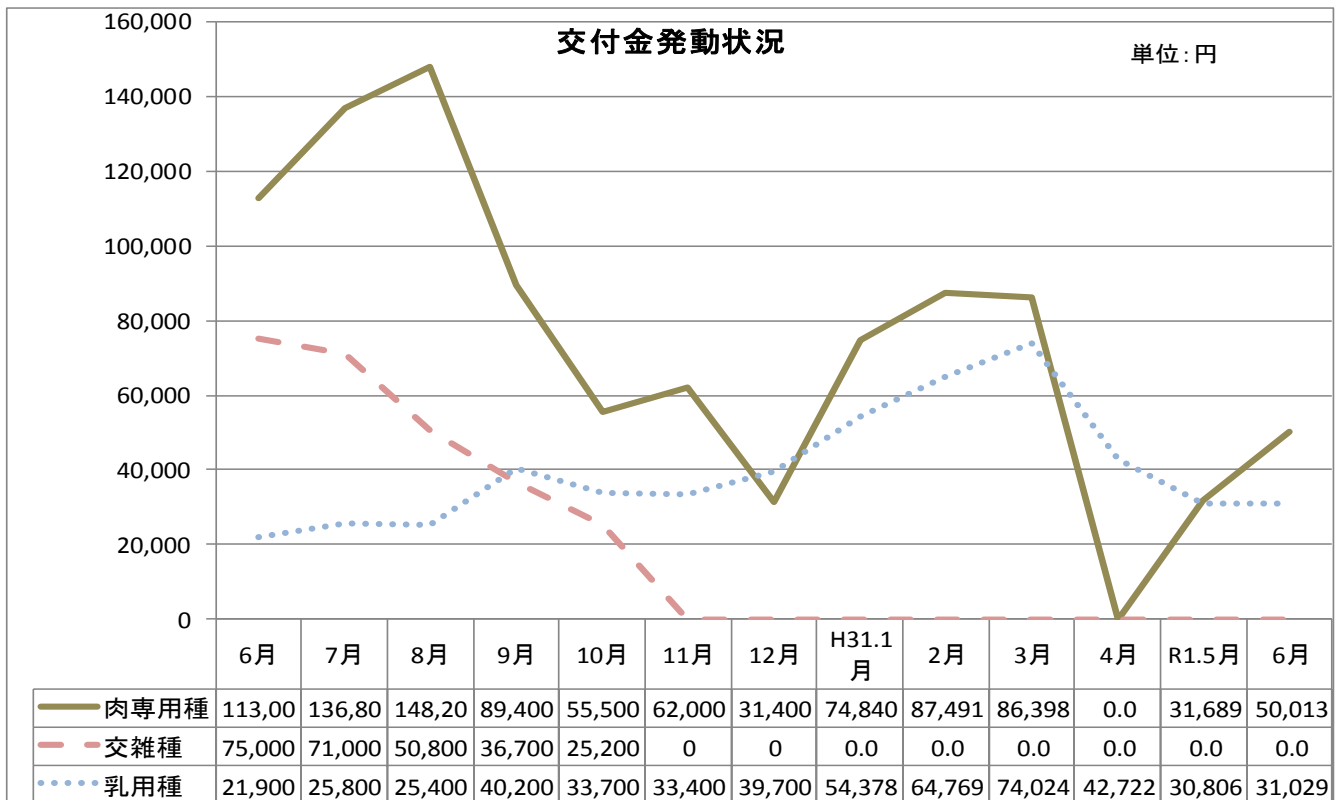
- 平成31年4月・令和元年5・6月分の単価(確定)が公表されました。
- 4・5・6月分の交付金交付は、8月28日(水)を予定しております。

平成31年4月・令和元年5・6月分交付金精算払単価公表

肉用牛肥育経営安定交付金制度の平成31年4月・令和元年5月分の交付金精算払単価が公表されましたので、精算払いを行います。

また、6月分の交付金単価が公表されました。肉専用種については、50,013.0円・乳用種については、31,029.3円 交雑種については交付がありませんでした。

詳細につきましては、肉用牛肥育経営安定交付金制度の交付金単価について【平成31年4月・令和元年5・6月分】(独立行政法人農畜産業振興機構発行)をご覧ください。



牛マルキン事業に関するホームページ

★公益社団法人 大分県畜産協会 <http://ooita.lin.gr.jp/>

当協会のホームページです。マルキン情報の他、市場結果、種雄牛情報等も掲載しております。

★独立行政法人 農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin_00002.html

(1) 畜産物の市況展望【牛肉】

～牛は旧盆手当動くも、相場牽引の勢いなし～

6月の牛枝肉価格は、和牛は去勢A5が前月比37円高の2,770円（前年同月比31円安）と上方修正され、同A4は1円安の2,431円（同23円高）、同A3は15円高の2,235円（同90円高）、同A2は20円高1,962円（同98円高）と強もちあいで推移した。

5月の大型連休以降、消費者の財布のひもが固くなり、牛肉を問わず、高単価品の売れ行きが低迷。さらには入梅で不需求期にあったが、全国的に出荷頭数が減少し、輸出向けやインバウンドの需要が安定していることから、和牛相場は小反発をみせた。

一方、交雑牛は6月に高騰した反動で一服感が出た。B4で5円安の1,757円（同102円高）、B3が18円安の1,649円（同166円高）、同B2は31円安の1,541円（同197円高）といずれも前月から値下がりしたが、前年実績を100～200円程度も上回る高水準を保った。旧盆商戦を控え、交雑牛はさらに引き合いが強まる可能性があり、もう一段上げとみる向きもある。

乳去勢B2は14円安の1,015円（21円安）と続落している。

7月は気温が低下し、海の日連休も天候に恵まれなかった。消費者の低価格志向は根強いことから、「ハレの日」も安価な商品へとシフト。季節的に焼き材が中心だが、和牛よりも、交雑牛、乳去勢、輸入牛肉での販促が強化された。「輸入牛を使ったバラ、ハラミ、牛タンなどの焼肉セットがよく動いた」（量販店）。ホルスの供給不足で国産の安い切り落としを商品化することが難しく、輸入牛肉が活用されている。

7月後半からは旧盆手当が動き始めたが、相場を牽引する勢いはなかった。

8月は旧盆手当が見込まれるものの、和牛は外食や輸出市場に依存する構図となっている。交雑牛は供給がひっ迫している。和牛去A5で2,750～2,800円、A4で2,450円前後、A3で2,200円中心、交雑種去勢B3で1,650円前後、B2で1,550円。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌8月号 抜粋）

(2) 情報提供

～鹿児島県で飼料用トウモロコシにツマジロクサヨトウが発生～

心配なニュースが入ってきた。7月3日に鹿児島県でツマジロクサヨトウの発生が国内で初めて確認されたのである。

ツマジロクサヨトウとは、イネやトウモロコシ等に食害を与えるガで、幼虫が植物の葉、茎、花ならびに果実に加害する。飛翔距離が長く繁殖力が強いという特徴がある。南北アメリカで発生以降、2016年1月に中国、6月に台湾と、発生範囲を拡大させている。

特に飼料用トウモロコシで多く発生しており、畜産経営への影響が懸念されている。すでに鹿児島県を含めた6県で発生が確認された。疑わしい害虫を発見した場合は、速やかに植物防疫所や都道府県畜産課に連絡すること。

そして、その指導に基づいて殺虫剤散布や早期刈り取り等を行えば、補助事業の対象になる場合もある。被害拡大防止のため、まずは、飼料用トウモロコシの圃場を確認してほしい。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌8月号 抜粋）

別紙 ツマジロクサヨトウの特徴等がわかる資料参照

「ツマジロクサヨトウ」に注意

飼料用とうもろこしに発生中

- ・南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアまで**発生範囲を拡大中**
- ・アフリカでは、とうもろこしに甚大な被害
- ・日本では本年7月に、**鹿児島で初めて発生を確認**
- ・飼料用とうもろこしで多く発生しており、被害の拡大による**畜産経営への影響が懸念**されます



南北アメリカ→アフリカ→アジアへと拡大

ツマジロクサヨトウの特徴

幼虫の食害による被害



幼虫が葉、茎、子実を食害

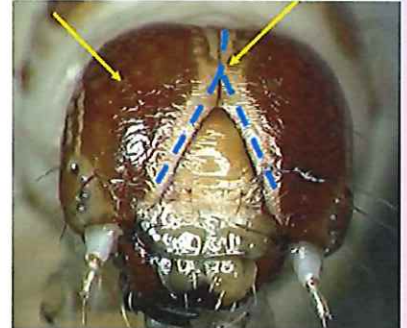
飛翔距離が長い、繁殖力が強い



- ・気流に乗って長距離移動する
- ・1回の産卵数は150~200個
- ・生涯産卵数は最大1000個

形態の特徴

網目模様 淡色部は逆Y字状



- ・幼虫の頭部には網目模様があり、「逆Y字」に見える。
- ・幼虫の体長は、1.7~40mm

多発すると被害が大きくなるおそれ！！

早期発見・早期防除が不可欠



農薬散布による防除



早期の収穫

被害の拡大防止のため、

- ✓ 飼料用とうもろこしのほ場に発生していないか確認し、疑わしい害虫を発見した場合は、速やかに問合せ先までご連絡ください
- ✓ 発生が確認されている地域(※)では、農薬の散布、早期の刈取を検討してください
- ✓ 周辺地域でも、状況に応じて早期の刈取を検討してください
- ✓ 刈り取り後は、速やかに耕耘してください



(※) ツマジロクサヨトウに関する情報はこちらで確認

(http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

○問合せ先

「ツマジロクサヨトウ」にご注意ください。

トウモロコシ、イネ、サトウキビ、サツマイモ、野菜類を食害する「ツマジロクサヨトウ」と思われたらご連絡ください。

[1]



[2]

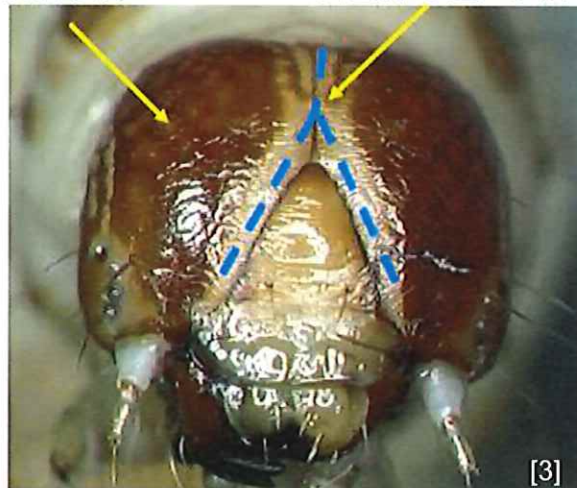
特徴

- 幼虫は大きくなると体長約 4 cm, 体色は左の写真のように変化があります。
- 頭部には網目模様があって「逆Y字」に見えます。

網目模様

淡色部は逆Y字状

被害の状況



幼虫の寄生



[1]～[5] は植物防疫所原図

(連絡先)

横浜植物防疫所 : tel 045-285-7135 fax 045-211-2171
名古屋植物防疫所 : tel 052-659-1357 fax 052-651-0115
神戸植物防疫所 : tel 078-389-5320 fax 078-391-1757
門司植物防疫所 : tel 093-321-2809 fax 098-321-0481
那覇植物防疫事務所 : tel 098-868-1679 fax 098-861-5500